

一、傍線部を口語訳せよ。

1 わが身一つならば、安らかならましを、 (更級日記)

2 呼びわづらひて、笛をいとをかくく吹きすまして、過ぎぬなり。 (更級日記)

二、次の助動詞の活用表を完成させ、それぞれ活用語の何形に接続するかも答えよ。

まし	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
	()	()	○				○	

三、傍線部の助動詞の意味を答えよ。

1 この女になにをか取らせまし。 (今昔物語集)

四、傍線部の助動詞の活用形を答えよ。

1 この女になにをか取らせまし。 (今昔物語集)

五、空欄に助動詞「まし」を活用させて入れよ。

1 世の中になほあら()ば、今は高き位にもなりなまし。 (宇津保物語)

六、助動詞「まし」は反実仮想を表す。次の用例について、事実はどうであったのか答えよ。

1 うぐひすの谷よりいづる声なくは春来ることをたれか知らまし (古今集)

七、空欄に助動詞「めり」を活用させて入れよ。

1 荒人神におはします()ば、おほやけも行幸せしめたまふ。 (大鏡)

八、空欄に伝聞・推定の助動詞「なり」を活用させて入れよ。

1 秋風に初(はつ)雁(かり)が音(ねぞ聞こゆ) ()誰(た)がたまづさをかけて来(き)つらむ (古今集)

九、傍線部の助動詞の意味を次のア～オから選び、活用形も答えよ。

(ア、推定(根拠のある) イ、推定(目で見た事実による) ウ、推定(耳で聞いた事実による) エ、婉曲 オ、伝聞)

1 わが旅は久しくあらしこのあが着(け)る妹(いも)がころもの垢(あか)づく見れば (万葉集)

2 1 一、 安らかであったらうに（心配もなかったらうに）
過ぎてしまったようだ

1 二、

まし	基本形
（ませ） ましか	未然形
○	連用形
まし	終止形
まし	連体形
ましか	已然形
○	命令形
未然形	接続

1 三、
ためらいの意志

1 四、
連体形

1 五、
ましか

1 六、
うぐいすの音が谷から聞こえるので、春が来たことがわかる。

1 七、
めれ

1 八、
なる

1 九、
ア・終止形